



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第47号

2010年9月3日

社叢インストラクター養成セミナー 受講者募集中！！

鎮守の森をあなたの手で守りませんか？

10月9日(土)～12日(火) 枚岡神社などで

社叢学会では、正しい管理をすることによって社叢はより快適な居住環境や住民の憩いの場を提供し、コミュニティの再構築にも大きな力を持つと考え、社叢管理の専門家である人材を育成してまいりました。今年も社叢インストラクター養成セミナーを、10月9日(土)～12日(火)の4日間、枚岡神社(東大阪市)、湧出宮(木津川市)などで開催いたします(詳細は3ページをご覧ください)。

セミナーでは、社叢学会理事をはじめとする、日本を代表する研究者が講師をつとめ、植物生態学の基礎から社叢の土壌、都市計画における社叢の役割、さらに神社と社叢の歴史など、社叢学会

ならではの幅広い分野の講義、実習、演習に取り組んでいただきます。

こうした知識を持つ「社叢インストラクター」の資格取得には本セミナーの受講が必須です。また、社叢インストラクターと、セミナー修了者による「社叢インストラクター・クラブ」は、さらに進んだ研修や、社叢見学会を開催し、クラブ員の資質の向上と情報交換の場となっています。

今後、こうした活動をさらに深めていくためにも、社叢インストラクター資格保持者が、広く日本全国に必要です。社叢インストラクターへの第1歩である本セミナーを、ぜひ受講下さい。

～鎮守の森からものづくり～



これがあれば神社と森が10倍楽しい！



アイデアコンテスト作品募集中！！

鎮守の森にのさばるタケやシュロに外来種、無計画な上に放置された植林地。おまけにカシノナガキクイムシを被害を受けて無残に枯れていくシイやカシ。鎮守の森は危機的状況におかれています。

森によからぬ影響を与える有害木はできるだけ早く除去したい。シイやカシなども病虫害に弱い老木になる前に、昔、薪や炭を作っていたように利用したい。とほいうものの、なかなか有効な利用法が見つからない…。そこで社叢学会では、鎮守の森の有害樹種を中心とした樹木の有効な活用方法を見出すため、「神社と鎮守の森をもっと楽しむためのもの」づくりアイデアコンテストを開催することにいたしました。優秀なアイデアには大賞(賞金3万円)、優秀賞(賞金1万円)が、商品化への可能性が最も高い作品には審査員賞が与えられ、商品化を支援してまいります。森の木を有効活用して森を楽しむ道具を作るための楽しいアイデア、ぜひお寄せください。応募の詳細につきましては、同封のチラシもしくは、社叢学会ホームページ<http://www.shasou.org/contest/>をご覧ください。

第3回一宮研究会を開催！

11月26日(金)14:00～27日(土)13:00 犬山里山学センターで

第41回関東定例研究会

2010年6月19日(土)

(於：國學院大學渋谷キャンパス)



明治期「鎮守の森」と照葉樹林

—地域資料による植生景観復元分析作業からみえてくること—

講師：畔上直樹(上越教育大学准教授)

照葉樹林は、現在人にとって鎮守の森のスタンダードの位置を占めていると考えられている。「鎮守の森」における照葉樹林は、わが国の代表的な森であり、土地本来の原生植生の貴重な手がかりとなる「郷土林」(潜在自然植生)であると解釈され強い関心をもたれている。しかしここ数年の研究で、照葉樹林の鎮守の森とされているところの、明治時代、或いは江戸時代の風景を再現してみると、全く違う風景である事例がかなり多いことがわかってきた。このことは画像資料を使った研究(植生景観史、神道学)や、地域史料による復元作業(歴史学)によって、植生景観の昔の姿を分析した研究成果から明らかになりつつある。ここで、地域史料による復元分析作業の事例を二つあげる。

まず東京都多摩市和田の十二神社。多摩市北西部丘陵地帯にあり、現状はシラカシが目立つ緑地で、昭和56(1981)年の段階での評価は、落葉広葉樹もみえるがシラカシの大木も目立ち、東北地域の原植生に近いような落葉広葉樹が二次林としてでてくるのは照葉樹林帯北方サブゾーンの特徵で、極相として照葉樹林に向っていると高く評価されている((社)日本公園緑地協会『多摩市の植生』)。こういった評価は生態学、植物社会学的な発想が念頭にあり、照葉樹林は潜在自然植生として貴重であり、照葉樹が残るのは鎮守の森を禁足地として保持する基層文化があるからといったことが前提にある。

しかし地域史料にみる明治初年の十二神社を復元してみると、これとは違う鎮守の森がみえてくる。明治9(1876)年「十二社宅地并上知立木取調帳」の分析によると、照葉樹は少なく、マツ次いでスギが上層部を占め、低木層部分に雑木(落葉広葉樹)が非常に多い。マツが生えていたということは、恒常的に地味豊かでない状況だったということ、また低木層を成す雑木の状況は「里山」薪炭林として利用されていたと考えられる為、ここは積極的に恒常的に人々が介入しないと成立し得ないような鎮守の森であったと考えられる。130年前の十二神社では、照葉樹林からイメージされるような聖なる禁足地として信仰文化を守るといったものは違う、人々の鎮守の森とのつきあいかたがあった。

さらに東京都多摩市多摩川沿いにある小野神社の事例で

ある。現状は大正15(1926)年の一ノ宮大火後に作られた公園的な景観だが、明治末年の境内の立木構成をみると、中心部(「社寺明細帳」に詳述)も、明治初期の上知により没収された周辺部(「太田家文書」に詳述)も、スギ主体の計画的な人工植林として基本的に一体のものであった。ただし周辺部には特に若いスギが目立つことと、二次遷移による照葉樹林化の端緒がみえることから、近い時期のスギ伐採・植栽の後、管理不十分になっていったと考えられる。実際、慶応元(1865)年に周辺部の立木を修築用用材として伐採し、明治2(1869)年に植栽をしたことが記されている。

上知によって官有地となった周辺部は、その後、御料地となり、部分的に禁足地化し、管理不十分となった。しかし、明治国家の禁足地化方針に政策理念はなく、明治明治33(1900)年の御料局の方針転換で御料地の整理が行われ、「社寺上地御料林特売規程」が出された。この時、小野神社の地元の人たちは即座に上知された境内周辺部の払い下げに応じる旨、願ひ出ている。境内地回復後、地元の人たちは照葉樹を含む「雑木」のみを伐採した。この時、行政側は風致懸念のため反対したが、地元側の理想的神社林はスギ林であるという主張を否定できず伐採は許可された。

明治時代の神社林は針葉樹人工植林を理想とするのが社会通念で、官社宮司・府県神社行政担当事務主任への内務省示達大正2(1913)年にもスギを主張する内容がある。当時この種の神社風致指導が実際に展開しており、これらは林学者・造園学者たちの当初の神社林論に対応していた。例えば、林学者本多静六は当初、針葉樹を神社の風致として推奨していた。この時はまだ生態学的認識(照葉樹林の価値化)と神社林論は結合せず、後に針葉樹を推していた林学者・造園学者たちは照葉樹林を推していくようになる。

以上のことから明治時代において「鎮守の森」における照葉樹林のスタンダード性は実態、社会通念、政策理念、学的言説のいずれの局面においても決して自明なものではないことが窺える。むしろ針葉樹林的「鎮守の森」が明治時代の特徴ではないか、そして、この構造の転換期としての大正時代の明治神宮建設問題があったといえる。

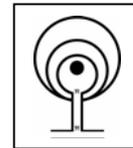
文責・大畑孝子

次回予告【第42回関東定例研究会】

- ◆日 時：10月30日(土)14時社務所集合～31日(日)彌彦山見学後、現地解散)
- ◆場 所：彌彦神社(新潟県西蒲原郡弥彦村弥彦)
- ◆テ マ：彌彦神社の社叢 現地見学会
- ◆話題提供：相馬 正幸(彌彦神社権禰宣)
- ◆参加費：¥15,000.- (彌彦温泉「お宿だいろく」宿泊代等)



第6回 社叢インストラクター 養成セミナー



鎮守の森をあなたの手で守りませんか？

地域の財産である社叢について詳しく調べ、その貴重性や現状を熟知し、保護し管理することができる「社叢インストラクター」を養成する講座を今年も開催いたします。

修了生からは社叢インストラクター資格取得者も輩出し、社叢調査に取り組んでいただいております。社叢インストラクターを目指し、ぜひご受講下さい。

日 時：Ⅰ期 2010年 10月9日（土）～12日（火）4日間

Ⅱ期 未定

応募資格：社叢学会会員で、全日程に出席が可能な方。なお、過去のセミナーを受講された方は、全日程のうち、1日でも受講できます

募集人員：10名 ※応募者多数の場合は抽選によって決定します。

Ⅰ期会場とスケジュール：

第1日 10月9日（土）枚岡神社（東大阪市出雲井町：近鉄奈良線枚岡駅下車すぐ）

09:30

社務所前集合

正式参拝・オリエンテーション

10:00～11:00

講義：枚岡神社の社叢

中東 弘・枚岡神社宮司

11:00～12:30

講義：社叢の調べ方

菅沼孝之・社叢学会副理事長

13:15～17:00

実習：群落と植物相の調査法

//

第2日 10月10日（日）京都市内の社叢

09:30～12:00

実習：社叢の種組成と構造

前迫ゆり・大阪産業大学教授

—地域植生と社叢—

（社叢インストラクター）

13:30～17:00

実習の取りまとめと講義：

//

社叢の現状から管理を考える

第3日 10月11日（月・祝）大豊神社・法然院など東山山麓の社叢

09:30～12:00

講義：社叢の動物

渡辺弘之・社叢学会理事

13:00～17:00

実習：社叢の景観と動物について

//

第4日 10月12日（火）和伎座天乃夫岐売神社【涌出宮】

（山城町平尾里屋敷：JR 奈良線棚倉駅前）

09:30～10:30

講義：涌出宮の社叢について

中谷勝彦・涌出宮宮司

10:30～16:00

講義と実習：近畿地方の盆地周辺の

菅沼孝之・社叢学会副理事長

の社叢の構成

16:00～17:00

とりまとめ

//

受講料：正・賛助・協力会員 20,000円 市民会員 23,000円（9～12日の昼食代を含む）

持参品：『身近な森の歩き方』（文英堂刊：事務局で販売 @1,400）、筆記具、折り尺、双眼鏡*、図鑑（樹木あるいは草本のみのものでも可）*（*は購入してまで持参する必要はありません）

申込書類：裏面をコピーし、写真（4cm×3cm）貼付の上、必要事項を記入し、下記あて送付してください

申込先：〒604-8115 京都市中京区雁金町 373 みよいビル 303 号室 社叢学会事務局

申込締り：2010年 10月 1日（必着）

受講手続：受講が決まった方には、振込用紙をお送りいたしますので、受講料をお納め下さい

* Ⅰ期・Ⅱ期の全講義を受講された方には、社叢インストラクター養成セミナー受講証書を授与します。社叢インストラクター資格認定試験受験のためには本セミナーの受講に加えて 1～2年の実地体験が必須です。

社叢インストラクター 養成セミナー 受講出願用紙

年 月 日

ふりがな			
氏名			
住所	〒		
日中に連絡可能な電話番号			
E-Mail アドレス			
性別	男 女	生年月日	昭和 平成 年 月 日
会員種別	正会員 市民会員 賛助会員 (名義) 協力会員 (名義)		
最終学歴			写真貼付け (縦4cm×横3cm)
職歴			
資格			
出願の動機			

第27回 中部定例研究会 報告

2010年7月31日
(於：氣多大社)

氣が集まる原生林「入らずの森」氣多大社の社叢

話題提供 三井 秀夫(氣多大社宮司)・松尾 孝夫(同権禰宜)
 コソテータ 岡村 穰(社叢学会理事・名古屋市立大学教授)

中部定例研究会の参加者から希望が多かった「入らずの森」のある氣多大社での開催がようやく実現した。参加者20名。氣多大社は平成17年(2005)11月に神社本庁との包括関係を解消し単立神社となる決定を行い、その「神社規則変更」について、平成22年(2010)4月に最高裁による氣多大社の主張を認める判決が確定した直後の開催となった。

入らずの森 本殿背後の森・入らずの森(氣多大社社叢)は面積約3.3ha、第一級の平地の原生林として昭和42年(1967)5月に国指定天然記念物に指定された暖帯林で、樹齢三百年から五百年の常緑広葉樹が自生している。構成樹種はスダジイ(コジイ)・タブノキを中心に、ヤブツバキ・ヤブニッケイ・シロダモなどで、樹幹には北限となるマメヅタがよく着生している。林床にはカラタチバナが多く、昭和58年(1983)の昭和天皇行幸の際に40分間森に入られ、足元に原生林でしか見られないカラタチバナの赤い実を見て、御製(和歌)を賜り、翌59年元旦に発表された。「斧入らぬ みやしろの森 めずらかに からたちばなの 生ふるをみたり」

森は3,500年位前に成立したと考えられるが、入森が禁じられた年代については明確でない。大晦日の夜八時頃に、森の扉を鍵の頭で2回叩いてから、松明を灯して宮司とお供が森の中に入って、サークルストーンとなっている奥宮で祭儀を務める。石川県巨樹の会の会員で、故里見信生氏(植物学・元金沢大学理学部教授)の指導の下で、入らずの森に入って調査を行った造園業で会員の立花氏が出席されており、「白い蛇がいて、怖かった」と話されていた。

日本海から吹き込む潮風や病害虫の被害から森を守る目的で、隣接の1.5haを植樹して「神木の杜」をつくる計画が故里見氏を中心に立てられ、日本海沿岸から国天然記念物に指定されている神木の種を集めて育てた苗を植樹している。

寺家遺跡 氣多大社周辺の地形は出雲大社と酷似している。寺家遺跡は、1978年に能登海浜道路建設工事に伴って発見され、飛鳥時代から室町時代の氣多大社の祭祀行為を示す勾玉・管玉・金環などが出土して、発見当時はその遺物の豊富さから「渚の正倉院」とも呼ばれた。七尾市から羽咋市に至る、幅3～4kmの能登半島を斜めに横断する邑知(おおち)地溝帯は、能登半島屈指の穀倉地帯で、古代には広大な干潟であった。

氣多大社で行われる国指定無形文化財の「鶉まつり」は七尾市の鶉浦町で捕らえた海鶉をかごに入れて運んでくる神事で、能の金春流の謡曲にもなっている。平国祭(おいでまつり)も七尾市の氣多本宮へ渡御する大規模な神幸祭である。

「入らずの森」の靈氣を浴びに、全国から多くの参拝者が訪れることを願いつつ、神社を後にした。
 文責：岡村 穰



次回予告【第28回中部定例研究会】

- ◆日 時：2010年9月25日(土) 13:30～16:00
- ◆会 場：埴生護国八幡宮(富山県小矢部市埴生2992 Tel0766-67-1220)
 ※集合場所：「歴史国道・俱利伽羅源平の郷・埴生口」の駐車場(集合場所問合せTel0766-67-5645)
- ◆テーマ：埴生護国八幡宮の社叢について
- ◆話題提供：埴生 雅章 宮司 他(調整中)

- 下記の通り、『社叢学研究』第9号への論文、活動報告などの投稿を募集しております。社叢学会は、日本学術会議協力学術研究団体に指定されておりますので、研究者の業績評価にもつながります。ぜひ、ご投稿下さい。
- 社叢学会のホームページのアドレスが変わりました。http://www.shasou.orgです。9月末まで旧アドレスは使えなくなります。ブックマークやリンク先など、ご登録いただいている方は、ご変更をお願いいたします。

暑い!!! だけで終わろうとしたら、少々余白が(って、実は記事を削って案内を詰め込んだじゃん!)。はいはい、ご期待にお応えして(!?)、おばかんすネタをイッパツ。
 えげれす国はエディンバラの王立植物園。温室があって、あんまり寒いんで体を温めに入ったわけです(もちろんこの8月のお話)。と、「熱帯植物」の部屋に、普通にそこらに庭木として花を咲かせる木が。。。そうか、ニッポンの近畿地方は熱帯なわけやな。で、無事、帰国。あの温室、涼しかったよなあ。。。 (藤岡 郁)

次回予告【第8回福岡県支部定例研究会】

- ◆日 時：10月3日(日) 10:30~12:00
- ◆場 所：太宰府天満宮文化研究所
- ◆テ - マ：人と生き物集う、これからの鎮守の森 ~手入れの心を時代に問う
- ◆講 師：朝廣 和夫(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)
- ◆問 合 せ：太宰府天満宮 味酒(みさけ)TEL092-922-8225

次回予告【第41回関西定例研究会】

- ◆日 時：2010年9月25日(土) 13:30~15:30
- ◆場 所：ビル・葆光6階 大道の間(京都市中京区室町御池西南角 TEL075-211-4171)
- ◆テ - マ：万葉歌「青丹よし寧楽の京師は咲く花の・・・」の歌から何を感じますか
- ◆講 師：菅沼 孝之(社叢学会副理事長・元奈良女子大学教授)

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』第7号への投稿：論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集いたします。
 締め切りは、いずれも10月29日(金)必着。

* 書評欄では会員の皆さまの著作を取り上げていきます。出版された方は、ぜひご献本下さい。

「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。
 手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
 TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
 URL http://www.shasou.org E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
 TEL080-1514-5032 E-Mail shasou@macrovision.co.jp